

(参考様式1)

人・農地プラン

市町村名	地区名	センサス集落名	当初作成年月	更新年月(1回目)	更新年月(2回目)	更新年月(3回目)	更新年月(4回目)	更新年月(5回目)	更新年月(6回目)	地区農用地面積 (ha)
阿武町	福賀	上笹尾、下笹尾、飯谷、栃原	平成24年12月	平成28年3月	平成29年12月					80.5

1. 今後の地域の中心となる経営体(担い手)

属性	経営体 (氏名)	経営者 代表者の 年齢	構成員 (従業員)	後継者 の有無	現状 [平成29年度]		計画 [平成34年度]		農地中 間管理 機構か らの借 入希望 の有無	新規就農・6次産業 化・高付加価値化・ 複合化・低コスト 化・法人化等の取組	取組年度	活用が見込まれる施策				備考
					経営内容 (作目)	経営規模 (ha)	経営内容 (作目)	経営規模 (ha)				農業次 世代人 材投資 資金	スー パーL 資金の 金利軽 減措置	経営体 育成支 援事業	その他	
認農法	(農)飯谷笹尾	71	74	有	水稻 酒造好適米 飼料用米 WCS用稲 牧草	23.5 5.9 13.1 1.2 2.3	水稻 酒造好適米 飼料用米 WCS用稲 牧草	23.5 5.9 13.1 1.2 2.3	○	低コスト化 法人化	H24					
認農法	(農)あぶの郷	62	46	有	水稻 酒造好適米 飼料用米 WCS用稲 牧草	24.8 2.4 3.3 2.1 7.6	水稻 酒造好適米 飼料用米 WCS用稲 牧草	24.8 2.4 3.3 2.1 7.6	○	新規就農	H27					
	和田 憲嗣	70	1	有	ほうれん草	1.2	ほうれん草	1.2		高付加価値化	H24					
認就	鈴屋 匡士	36	1	無	ほうれん草	0.2	ほうれん草	0.2		新規就農	H24	○				
	長嶺 淳	71	2	有	ほうれん草	0.3	ほうれん草	0.3		高付加価値化	H24					
認農	増田 庸祐	52	1	有	ほうれん草	0.2	ほうれん草	0.2		高付加価値化	H24		○			
認農	西村 俊光	67	3	有	ほうれん草	0.4	ほうれん草	0.4		高付加価値化	H24					
	合計				作付面積(二毛作含)	88.5	作付面積(二毛作含)	88.5								

2. 1から見た地域における担い手の確保状況

担い手は十分確保されている 担い手はいるが十分でない 担い手がない

3. 将来の農地利用の在り方

取組事項	対応	
担い手に集積・集約化する	○	
担い手の分散錯圖を解消する		
新規参入を促進して、新規参入者に集積・集約化する		
耕作放棄地を解消する	○	
その他【右欄に自由に記載】		

4. 3についての農地中間管理機構の活用方針

取組事項	対応	
地域の農地所有者は、原則として農地中間管理機構に貸し付ける		貸付者(出し手)と借受者(受け手)の調整を行い、農地中間管理機構の活用を推進していく。
農業をリタイア・経営転換する人は、原則として農地中間管理機構に貸し付ける		
担い手の分散錯圖を解消するため利用権を交換しようとする人は、原則として農地中間管理機構に貸し付ける		
その他【右欄に自由に記載】	○	

5. 近い将来農地の出し手となる者の農地

近い将来農地の出し手となる農業者	年齢	現状 [平成29年度]		計画 [平成34年度]		利用しなくなる農地面積(ha)	農地中間管理機構への貸付希望の有無		
		経営内容 (作目)	経営規模 (ha)	経営内容 (作目)	経営規模 (ha)			農地面積	貸付時期

6. 今後の地域農業の在り方

○

今後の地域農業の在り方(地域の中心となる経営体とそれ以外の農業者を含めて)		
取組事項	対応	コメント
生産品目の明確化		高付加価値化については、既にブランド化されている「福賀ほうれん草」の栽培技術を一層向上させ、品質管理の徹底を進めていく。 また水稲については、付加価値の高い酒造好適米などを市場ニーズに応じて生産していく。 新規就農の促進については、H25年1月より家族経営協定を締結して夫婦で共同経営を行っているケースがある。今後は、このケースを優良事例とし、他の品目も含めた新規就農の促進を引き続き行う。 低コスト化については、水稲を中心としながら、消費者ニーズに対応した用途別生産や品目を選択するとともに、機械化を促進することで、省力・低コスト栽培を進めていく。
複合化		
6次産業化		
高付加価値化	○	
新規就農の促進	○	
その他[低コスト化]	○	